

R2.10.21北國新聞(朝刊)



手取川にサケ里帰り 遡上1号、平年並み

白山市の県水産総合センター美川事業所は20日、手取川支流の熊田川と同事業所を結ぶ導水路などで、今年初となるサケの遡上を確認した。遡上は平年並みで、11月上旬から同月中旬にピークを迎える。今月20日からはサケ釣りの一般開放が始まる予定で、愛好者の期待も高まりそうだ。

同センター美川事業所によると、遡上を確認されたのは雄雌各2匹で、職員が導水路と敷地内の水槽で見つけた。雄は59センチ60グラム、雌は58センチ66グラムで、体重は1.74と3.0キロ。いずれも2016と17年に放流された3、4歳魚だった。

同事業所は12月上旬にかけて約3千匹を捕獲して採卵、ふ化させ、来春に約350万匹の稚魚を放流する。

有効利用調査、コロナで縮小

29日に始まるサケ釣りの一般開放「手取川サーモンフィッシング(サケ有効利用調査)」は、新型コロナウイルスの感染防止に配慮し、例年より規模を縮小する。同調査実行委によると、期間は11月23日までと1週間程度短く、定員も1と2割抑えた。参加できるのは事前に応募して許可を受けた人のみで、既に募集は終了している。

今年初めて遡上が確認されたサケ
＝白山市の県水産総合センター美川事業所

R2.10.21北陸中日新聞(朝刊)



手取川サケのシーズン 今年初確認時期は平年並み

白山市の手取川河口近くは平年並みで、昨年よりも早く、サケの遡上が今 三日早かった。 県水産総合センター生産

部美川事業所の職員が午前七時半ごろ、手取川支流の熊田川につながる事業所内の親魚池と導水路でシロサケ四匹を見つけ、捕獲。三、四歳の雌雄二匹ずつで、体長は五八と六六センチ、体重は約一・七と三キログラムだった。

事業所によると、遡上のピークは11月上旬から中旬。11月上旬までに約三千匹を捕獲し、採卵とふ化を経て来春、約三百五十万匹の稚魚を手取川に放流する予定という。

戒田典久所長(左)は「数年前に放した稚魚が元気に帰ってきた。大切に育てたい」と話した。

手取川河口付近では二十九日から十一月二十三日まで、許可を受けた釣り人によるサケ有効利用調査が実施される。

(都沙羅)

手取川河口近くで今年初めて遡上したサケ。白山市湊町で